

種智院大學 同窓會報

第14号

平成5年3月31日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545
種智院大学同窓会

元本学学長土宜法龍猥下渡米百周年（シカゴ万国宗教大会）によせて

同窓会会長 池田 瑩 輝

平成5年（1993）は、真言宗の近代化に尽力された土宜法龍猥下がシカゴ万国宗教大会に出席されて、百年目にあたる。この万国宗教大会は、明治26年（1893）シカゴで開催された万国博覧会にあわせて挙行されたもので、日本からは、さまざまな支援をうけて、各宗の主だった大徳が参加された世界的な宗教大会であった。

明治中期とはいえ仏教界の近代化にむけて、さまざまな試みがなされるなか、日本の仏教界を代表するかたちで、わが真言宗から土宜法龍猥下が当大会において貴重な報告をされ、さらに、ヨーロッパ各地をまわり、インドの仏跡を訪れ、仏教界に国際的な色彩を送りこんだことは特筆されるべきことである。



土宜法龍猥下

私には、かねてから、真言宗の国際性について考え、いくつかの実践を試みてきたが、今般、わが真言宗にかくも偉大なる先達がおられ、しかも、今年ちょうど渡米百周年にあたることを思い、この歴史的な偉業を改めてここに紹介し、あわせて、先達の遺徳を偲び、今後の真言宗の発展への提起になることを念願するものである。

土宜法龍猥下については、没後まもなく出版された『木母堂全集』全一卷（宮崎忍海師編大正13年、六大新報社）にその偉業をみることができる。しかし、本書刊行以来七十年近く経過し、容易に手にとることができない。そこで、本書を繕きながら、猥下の偉業の一端と万国宗教大会について、ここに述べておきたい。

土宜法龍猥下は、安政元年（1854）8月名古屋

に生まれ、同5年、京都六角能満院大願和尚に従って剃度し、法龍と称した。明治2年（1869）高野山に上り伝法入壇し翌3年大阪府南河内郡の野中寺にて沙弥授戒、さらに同年同郡の延命寺上田照遍和尚より宗学等を稟け、小野流の許可を受ける。また、同5年には、照遍和尚より三宝院憲深方等の相承を受けた。のちに、高野山宝光院神龍和尚に従い、高野山学林の助教ともなり、宗乗を学んだ。明治14年（1881）に真言宗法務所課長となり上京。新古合併法務所の事務をとる一方、釈雲照猥下とともに宮中後七日御修法の復興を請願した。また、宗祖弘法大師千五百年忌修行に付き東寺大勧進を施行、とくに総覺創立に尽力された。

明治16年香川県三谷寺住職となるも、法務所の宗務、高野山学林の教務に専念。同26年、米国シカゴ万国宗教大会に日本代表の一人として出席。このとき、40才であった。米国から、イギリス、フランスにわたり、フランスでは滞在6か月に及び、パリ・ギユメ博物館の要請により同館仏教部の説明書を製作、密教四度部の書も訳出。翌年、インドに立ち寄り、仏跡を巡拝。同年6月帰国。

帰国後は、明治29年（1896）聯合高等学林の設立に尽力。同32年には真言宗宗会議長、同33年法務所庶務課長を歴任。真言宗各派の分離・連合問題の渦中であって、分離に抗してきた。同39年に仁和寺門跡御室派管長、京都聯合大学の総理に就任。大正期に入っては、同2年に聯合長者、同5年宮中後七日御修法大阿闍梨となり、同9年には高野派管長に就任、高野山大学総理、高野山靈宝館長等を兼任。大正12年（1923）1月10日、金剛峯寺にて示寂（享年70才）。

このように、土宜猥下の生涯は真言宗門の分離・連合という近代化の過程に揺れ動くなかで、宗門行政を担い、後継僧養成のために学林・大学の中心とされてきた。

このなかにおいて、万国宗教大会・ヨーロッパ、インドへの旅はどのような意味があったのであろうか。

明治の仏教界において、早くから欧米への使節を派遣した西本願寺は別にして、欧米との交流は、近代ヨーロッパの仏教学研究に学んだ学問上のことに始まる。これにより、明治中期以降サンスクリット語、パーリ語などの言語学的研究の進展がみられた。これにたいし、仏教界では、やはり、明治26年の万国宗教大会が国際的視野に立つ交流として早い例となろう。

「六大新報」の明治25年7月以降の記事を、同社の橋本江理子氏（本会会員）の御協力を得て、調査したところ、万国宗教大会に関する記事がいくつもみられ、関心の高さが窺われる。日本の仏教界の反応は、まず、この大会がキリスト教の拡張に寄与するものであるとする反対論があった。この意見にたいし、未曾有の世界的な大会に注目し、万難を排しても参加すべしとの論が有力となっていた。文明開化のかけごえから二十余年、真に国際的視野が求められ、現実のものとしてい

うとする考えがおこってきたといえよう。この熱意が、渡航費用を捻出せんがために国会議員への寄付依頼等にもみられる。

シカゴ万国宗教大会は、明治26年9月11日より27日まで開催。この大会には、仏教、神道、ユダヤ教、儒教、ヒンドゥー教、キリスト教等の各宗教の関係者が出席。この大会で日本から参加したなかで、八淵蟠龍師は「仏教大意」、釈宗演師は「因果説」を講演。土宜猯下は「日本仏教各宗略史」および「日本の仏教」の二題を三千五百の聴衆の前で、講演。

この講演は、他の日本の参加者が日本語で講演したのにたいし、土宜猯下は英語でおこない、聴衆の感動を与えたという。このことは、外国語にたいする深く、高い関心の表れであり、真言宗の国際性がこのとき既に開かれていたことを意味するものである。

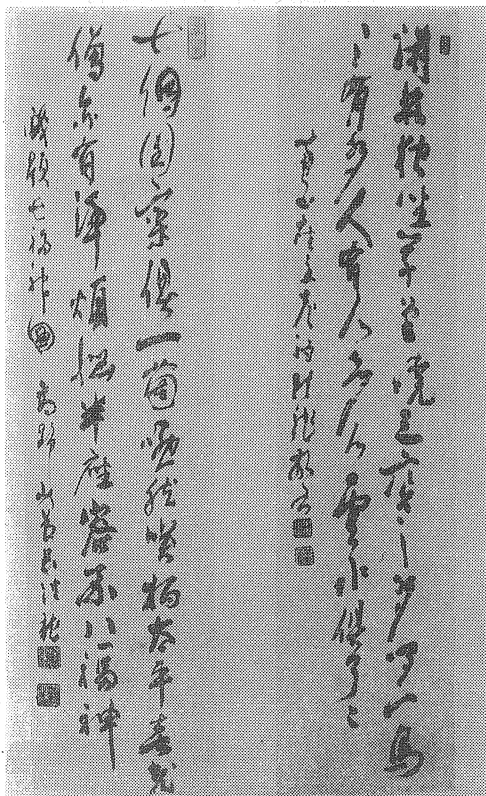
また、猯下の講演は、日本の仏教を世界に紹介し、各宗の概要を述べるものであったが、「日本仏教各宗略史」において、はじめての国際的な舞台への参加であるにも関わらず、堂々と次のように述べている。

日本仏教家は多くの希望を有し、亦大なる幸福を有せり。夫れ必ず遠からずして、一大革新を起し、仏教之れにより大いに起り、其の羽翼を全世界に拡張し、大鵬一展万里、日本仏教は変じて全世界の仏教とならん。嗟乎亦多幸なる哉、多忙なる哉前途。
（『木母堂全集』14頁）

この大いなる気概は、今日のわれわれをも圧倒するものである。新風に満ち、将来を意気軒昂に訴えた猯下の姿を、改めて思うことである。

明治から大正と、近代化のめまぐるしい過程のなかで、欧米諸国の宗教者にたいし、仏教徒として、少数の参加にもかかわらず、かくも見事にその将来を述べたことを思うとき、この百年の経過と、われわれ真言宗門の今後への思いを、もう一度考えなおすことも必要なことではなからうかと思ふ。

土宜法龍猯下渡米百年を機縁として、宗門の偉大なる先達として、また、国際的視野を真言宗門に提起して下さったことを記念として、ここに猯下の偉業をしのび、あらためて考えなおしていきたいと願うものである。



土宜法龍猯下の墨跡（『木母堂全集』より）

種智院大学同窓会大阪支部役員会の報告

種智院大学同窓会大阪支部では、平成4年12月7日(月) PM 5:00 より大阪・中央区の法善寺横丁「えび家本店」で役員会並に役員懇談会を開催。

当日は役員13名中9名の出席で、支部長(田中実道)のあいさつで始まり、会員で昭和24年卒業の佐々木初氏が4月に逝去されたことを報告。又会計に同窓会本部より助成金(援助金)が入金された事を報告。

つづいて、平成5年度の支部総会の日程を検討。平成5年度の支部総会は役員改選の年に当る

ので、早期に会員に知らせる意味で同窓会誌に広告を出すことを了承し、支部総会予定日を平成5年4月27日(火)に決定。支部総会までにもう一度役員会を開催する事で会議を終り、懇親会に入りPM9:00に散会。(土屋博秀師からの報告)

〔当日の出席者〕(敬称略)

田中実道、西端良諦、法本弘文、見城芳行、上田靈宣、玉山順彦、佐野剛空、西田義範、土屋博秀の9名。

平成4年度卒業論文題目一覧

・仏教学コース

- 東 作衣 親鸞における称名念仏の形成
塚田信次郎 法然の浄土観
新木 孝典 日蓮の神祇観
——立正安国論において——
森本 基史 徳一の密教批判
——『真言宗未決文』第三疑、第十一疑
における一考察——

・密教学コース

- 飯田 俊治 異本即身成佛義について
上村 宝大 金剛頂経における五仏について
木村 孝禅 空海における即身成佛思想の成立と展開
小泉 吉弘 曼荼羅における内的理解
曾我 太 菩提心と三密行
高橋 正行 理趣経における大衆思想
宗利慶太郎 密教における念誦の意義について
沖津 宣照 興教大師の曼荼羅観
尾上 治 密教における真言について
林 秀実 叡尊の戒律観とその実践について
青柳 康弘 興教大師の金剛薩埵観
岡田 光生 修験道における柴燈護摩について
浅井 一仁 弘法大師の即身成佛観
三上須佐夫 密教における観想について

・仏教福祉学コース

- 有木 義人 障害者の雇用について
井出 智子 精神薄弱者の就労に関する一考察
岡本 和俊 特別養護老人ホームの現状と今後の課題
尾上 昌二 ホスピス・ケアにおける現状と対策
——淀川キリスト病院を中心に——
川田 憲男 社会福祉施設の社会化と問題
河村 晃行 現代社会の非行問題について
鈴木 禎大 老人福祉に関する一考察
砂子 智 障害者における就労問題について
高木 春司 身体障害児の教育問題
辻井 雅典 非行少年に対する司法福祉の現状と課題
弟子丸 達 仏教におけるターミナル・ケア
花岡 友美 児童虐待について
——親子関係を中心とした考察——
林 晃司 在宅老人の現状と課題について
——在宅介護を中心に——
林 雄二 国家財政における社会保障の問題について
——ケインズ主義的福祉国家の危機——
引間 正寛 身体障害者の所得保障問題
——生活保護による保障の考察——

- 福井 隆之 学校生活における集団暴力の問題について
- 松島 幾馬 障害者施設の医療技術者の役割と機能
——理学療法士、作業療法士について——
- 矢島 義紀 精神薄弱者をめぐっての一考察
- 山本 真紀 視覚障害者の就労の変遷
- 南口 和彦 在宅老人の生活とその社会資源
- 猪尾 哲史 在宅老人のリハビリテーション
- 斎藤 浩 医療と福祉
——高齢者を対象とした地域福祉に関する諸問題——
- 田之上俊也 高齢者就労の諸問題と対策
- 田村 匡智 有料老人ホームにおける諸問題
- 日比 満 母子家庭の諸問題と福祉対策について
- 細川 景子 施設における介護のあり方について
——特別養護老人ホームを中心に——
- 和田 匡 デイサービス事業と在宅ケアシステムの現状と動向
- 中江 康明 ボランティア活動について
- 二階堂 保 身体障害者のリハビリテーションについて

■訃報

眞井圓順師 (昭和12年) 平成4年9月逝去
 養学眞雅師 (昭和3年) 平成4年10月逝去
 入江宥憲師 (昭和15年) 平成5年1月逝去
 坂口密翁師 (賛助会員) 平成5年2月逝去
 安井玄純師 (昭和12年) 平成5年3月逝去
 同窓会参与、前総本山泉涌寺事務長

会員消息 □□□□□□□□

藤田俊教師 (昭和10年) 大僧正に昇補。
 安井玄純師 (昭和12年) 大僧正に昇補。
 桑田善照師 (昭和17年) 大僧正に昇補。
 東田教範師 (昭和24年) 権大僧正に昇補。
 足立有教師 (昭和28年) 権大僧正に昇補。
 川島勝則氏 (昭和56年) ディスプレイ & SP「フ
 ァジイ」(本社・滋賀県栗東町小柿)
 代表として活躍中。

お詫び

同窓会報第13号の、養学智海師(昭和16年)の訃報は事務局の誤りでした。ご本人並びに関係各位に多大のご迷惑をおかけしましたこと、謹んでお詫び申し上げます。

=== 降 誕 会 協 賛 ===

<p style="text-align: center;">種智院大学同窓会</p> <p style="text-align: center;">大阪支部</p> <p style="text-align: center;">平成五年度支部総会は、 平成五年四月二十七日(火)午後六時に開催。 多数の出席を乞う。</p> <p style="text-align: center;">支部長 田 中 実 道</p>	<p style="text-align: center;">〒799-12 愛媛県西条市大保木四一三六 電話(〇八九七)五九一〇〇一一</p> <p style="text-align: center;">神 野 龍 幸 (昭和二十四年卒)</p>	<p style="text-align: center;">石 鎚 山 眞 言 宗 管 長 総本山極楽寺法主</p> <p style="text-align: center;">蓮 生 善 隆</p> <p style="text-align: center;">〒765 香川県善通寺市善通寺町三一三一 電話(〇八七七)六二一〇一一</p> <p style="text-align: center;">眞言宗善通寺派管長 総本山善通寺法主</p>
---	--	--

降誕会協賛

元正天皇勅願寺

開祖 泰澄大師

西国第十二番靈場

(ぼけ封じ)

近畿十楽観音靈場第四番

岩間山 正法寺

(通称 岩間寺)

山主 田居龍空

〒520 大津市石山内畑町82

☎ (0775) 34-2412

第15回世界連邦平和促進全国宗教者四天王寺大会

大会長・和宗四天王寺管長

瀧 藤 尊 教

大会実行委員長

世界連邦日本宗教委員会委員長

池 田 瑩 輝

- 主 催 世界連邦日本宗教委員会
- 共 催 和宗総本山 四天王寺
- 会 場 和宗総本山 「和光館」
大阪市天王寺区1-11-18
- テ ー マ 「新しい世界秩序をめざして」
≪ 民族の共生と和の思想 ≫
- 日 程 平成5年7月2日(金) A.M.10:00~P.M.8:30
- 受 付 A.M.10:00~A.M.11:00
- 開会式 A.M.11:00~P.M.0:30
- 昼 食 P.M.0:30~P.M.1:20
- 記念講演 P.M.1:40~P.M.2:40
- 講 師 四天王寺国際仏教大学名誉教授
文学博士 金 治 勇 先生
- パネルディスカッション P.M.2:50~P.M.5:20
- テ ー マ 「21世紀の構図と宗教者の役割」
- 第1部 「民族と国家の相関図」
- 第2部 「国際連合と世界連邦の未来図」
- 平和の祈り P.M.5:20~P.M.5:50
- 閉会式 P.M.5:50~P.M.6:10
- 懇親会 P.M.7:00~P.M.8:30
- 会場「都ホテル大阪」
大阪市天王寺区上本町6丁目
- 参加費 2,000 円 } 当日受付にてお納め願います。
懇親会費 8,000 円 }

上記の通り、四天王寺創建1400年、シカゴ宗教者大会100周年を記念して大会が開催されることになりました。宗教、宗派の和合をはかり、世界諸民族の共生を念願する方々の一人でも多くのご参加をお待ち致しております。参加希望の方は平成5年6月15日までに、宝塚市中山寺2丁目11-1 中山寺成就院 池田瑩輝宛、葉書でお申し込み願います。

種智院大学学舎竣工記念論文集

佛 教 万 華

目 次

刊行の辞.....麻 生 文 雄
 発刊に寄せて.....高 井 隆 秀
 伝教大師最澄と修禪大師義真の間（下）.....仲 尾 俊 博
 『大日経』の如実知自心と阿字観.....山 崎 泰 廣
 仏教音楽の成立と展開に関する研究.....井 上 亮 淳
 「諸法」と「仏知見」と「衆生の自性」.....苅 谷 定 彦
 ——法華経方便品の構造——
 色砂龍神委託儀式.....北 村 太 道
 東インド・オリッサ州所在ウダヤギリ遺跡の新発掘.....頼 富 本 宏
 インド大乘仏教思想における外界実在論批判の特色.....沖 和 史
 『無量寿経』における「唯除五逆誹謗正法」.....中 川 英 尚
 炭疽研究小史.....吉 田 元
 昭和後期の秩父巡礼.....佐 藤 久 光
 藤原冬嗣政権の救済施策について.....宮 城 洋一郎
 西安碑林所蔵 梵字真言陀羅尼経幢について.....児 玉 義 隆
 仏 画 雑 感.....中 村 幸 子
 真言宗の社会事業.....滝 村 雅 人

頒価 6,500円
(〒280円)

永 田 文 昌 堂

〒600 京都市下京区花屋町西洞院西入ル

振替京都2-936 Tel.075-371-6651

【御案内】

平成五年度

種智院大学同窓会総会

日時・平成五年六月二十九日(火)・友引
午後一時三十分

場所・種智院大学講堂

記念行事

土宜法龍猊下の渡米百周年を記念する
講演を検討中
土宜法龍猊下の墨跡展